

山陰仏社会報

Sō-Sō

[壮創]

第14号

山陰教区仏教壮年会連盟会報・第14号

【編集・発行】山陰教区仏教壮年会連盟事務局
〒690-0002 松江市大正町443-1(本願寺山陰教堂内)
電話(0852)21-4747 FAX(0852)27-8351



平成二十八年総会開催に思う

大田西組 泉原省三

平成二十八年年度の仏教壮年会連盟の総会が本願寺山陰教堂で開催されました。農繁期も一段落した五月十四日、八名の参加をいただき執行部は胸をなで下ろしたことでしよう。総会の講師を決める為の理事会では何時もどなたにしようかと頭を悩ます事であります。今年は漢見覚恵先生にお願いすることで役員の意見が一致して纏まりました。仏壮の専任講師でもあり誰もが期待して待ち望んでいた様子が伺えました。お話の詳細について報告はできませんが、お寺が仏教壮年会に求めるもの大きさ、重要さを感じ取ることができました。仏壮に期待されるお寺の気持ちを改めて理解できた研修会で有ったようにも感じました。総会は向こう一年間の事業計画と予算案の審議を行うとともに総会に併せて研修会を行う大切

な行事であります。総会は形式的なお祭りになってはいけません。今後の進むべき道をみんなで議論する大切な会議です。総会並びに研修会が有意義に終了できる裏にはどんな支えがあるだろうかと思えてみました。役員や事務局が過去の流れや時代の背景を的確に把握して対応していることに加え、理事全員が過去の役職にとらわれず一兵卒として、執行部を支える素晴らしい習慣と体質があるからだと思えます。この仏壮の伝統は是非受け継がなければなりません。自分がやらなくても誰かがやる。ではなく自分がやらなければ誰かやる、自分しか出来ない事だと思つて取り組むことが大切でしょう。年に一度の総会の在り方も過去の例にとらわれることなく新しい発想が求められる時代の到来だと感じました。

ブロック研修会報告

石見ブロック研修 in かわもと?!

川本組 福谷善彦

平成二十八年七月二十三日、石見ブロック研修会を島根県邑智郡川本町の悠邑ふるさと会館で開催いたしました。

川本組での開催は平成二十年以来の研修でした。

石見ブロック研修の参加人数は年々減少傾向にあるため、縁ある人、ない人、そして壮年とは男女を区別していないため、川本組内各寺院へ男女を問わず広く参加いただくよう組長より要請をしていただきました。

公共交通機関の少ない山間にも関わらず遠く鹿足組・益田組から参加いただき、また、女性は十九名も参加いただき総数八八名のご参加をいただきました。

研修内容については、開催地が、「緑にこだまする音楽の里」「だからこそ川本」ということもあり、従来



の研修内容にこだわらず、「響け念仏音楽と共に」をテーマに江津組光善寺波北様のご紹介により備後教区三次組の西覺寺住職伊川大慶師をお招きし、お取次ぎとすばらしいピアノ演奏により宗歌をあげさせていただきました。短い時間ではありましたが、み法のご縁を喜ばさせていただきました。

講義終了後、ご門徒さんが伊川先生の控室に來られ、「大変感動した。またこのようなご縁をいただきたい、いつ頂けるか?」と満ち満ちた喜びと感動の表情で先生とお会いになりました。企画したスタッフとして、お一人でもみ仏の徳の尊さを喜んでいただき伝灯をつないでいただけることを喜ばせていただいたところでした。宗歌をあげたい、宗歌を通して称名念仏を広く広げ、ご聖人のみ教えを一つひとつとなればと思うところで

最後に、川本組で行いましたこの研修会で阿弥陀様のご縁でご支援・ご協力としてご参加いただきました皆様方に感謝し、ここにお礼申し上げます「南無阿弥陀仏」

合掌

鳥取ブロック仏壮研修会に参加して

鳥取因幡組 中村 勲 (願正寺仏壮)

平成二十八年八月二十八日、鳥取因幡組願正寺に於いて、鳥取ブロック仏壮研修会が開催されました。

台風十二号接近の影響もあり、天気が心配されましたが、雨の心配もなく、県内各地より四十八名の方が参加され、盛大に行なわれました。

開会式の後、山陰教区仏壮連盟中尾了信会長の挨拶の後、御講師鳥取伯耆組勝福寺若原道昭氏による「世俗化と宗教」というテーマで講演と問題提起を頂きました。

「他国坊主と地侍」のつかみの話から、世俗化と宗教関係、宗教の影響力低下の背景等の講話をお聞きして、昼食休憩後、五つの分散会にて話し合いを行いました。

私達の所では、日頃の生活に於いて、どのような形で宗教と関わっているか話し合いを行いました。

月に一回は必ず家族全員集まってお経を上げている方、朝夕、仏壇に手を合わせて、一日一日感謝を報告されている方等、さまざまでしたが何らかの形で実施していると

一方、自分達の子供、孫達はどうですかとの話

になると、大半の方が、子供達が全く興味関心も

無いとの話になり、親、祖父母から子供や孫達への宗教慣習の伝承がこれからの問題であると痛感させられました。

今後は、私達がいかに、宗教に関心を持ち、日々の生活の中で実践行動をしていく事が大切であると話し合いました。最後に、講師の先生から現代の人々に伝える教えの工夫、伝承教化の御講話をお聞きして閉会しました。

私自身、鳥取ブロック研修会は初めての参加でありましたが、県内各地で熱心に行っている仏壮活動をされている方々のお話をお聞き出来、大変有意義な研修会であったと感じました。



出雲ブロック仏壮研修会報告

神門組 正善寺 本田和政

平成二十八年十月十六日、出雲ブロックの研修会が、出雲市のラピタウエディングパレスにおいて、七十一名が参加し開催されました。

研修会では本願寺派布教使(神門組長榮寺住職) 藤野昭信師より「『自他共に』とは」と題し、御講話をいただきました。

(ご消息の意について)

本年十月より来年五月まで伝灯奉告法要が勤まっていますが、この法要を迎えるにあたって新しいご門主より私たちにお手紙(消息)が出されました。

ご消息は何段かに分かれていますが、四段目にお寺にとって、私たち門徒、仏壮にとって大事なことが書いてあります。

何といっても、南無阿弥陀仏という阿弥陀様からの呼び声を聴くことであります。

しかし、それで終わらないで自分が聴いた南無阿弥陀仏の教えをとなりの人、他の人にも伝え、教えを聴いた皆で、社会で現実起こっているいろいろな問題について考えていかなければなりません。

そういう営みの先に、自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献することができると示されています。

(そういう営みについて)

私たち門徒、仏壮はどう取り組めば良いかを具体的な事例を交えながらのお話を聴き、それぞれが自分の取り組みべきことを考えたことであつたと思います。

仏教壮年会連盟の綱領は「われわれ仏教壮年は、自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、ともにお念仏申す朋友の輪を拡げ、心豊かに生きる社会の実現を目指します。」であります。

今回の研修会に学び各自が行動することで、「自他共に」心豊かに生きる社会が実現できるのではないかと思います。

合掌

第二五代専如門主伝灯奉告法要
仏壮連盟教区代表者参拝

山陰教区仏壮連盟 理事長 房安 薫

去る十月二十二日、仏壮連盟の教区代表者参拝が行われました。全国の仏壮会員には、日数・人数等の関係で募集しないで、教区代表者参拝とした様です。山陰教区からは、理事長房安・副理事長福谷・顧問泉原・担当菅の四名で参加し、全国から二〇四名の方が参加しました。当日は御影堂での参拝でした。

午後二時より伝灯奉告法要が勤まり、阿弥陀堂・御影堂両堂が参集された方々の、読経の声・お念仏の声で満たされていました。法要後の伝灯のつどいでは大谷家ご家族揃って入堂され、和やかに楽しく過ごさせていただきました。一般の参拝者は、法要終了後帰られますが、仏壮では記念式典を計画し、別会場へと移動しました。記念式典では前門主様にご臨席いただきお言葉を頂戴いたしました。新門主様は、長期間の法要行事であり、体調の事も考へて、外出はひかえておられるとのことでした。記念式典終了後は懇親会へと移り、各教区持ち寄りの地酒を頂戴しながら、準備されていた催しをたのしんだり、それぞれに近況



を話し合ったりと、和やかに過ごさせていただきました。

各地から参集された代表者の方々と、いろいろお話しさせて戴く機会を得られたこと、大変嬉しく思いました。私達の年代の者にとって、今後このようなご縁に会うことは無いと思い、寺院から参拝のお誘いがあれば、もう一度参拝したいとの思いで、翌日帰路につきました。ありがとうございました。

合掌

「寺院仏壮結成に向けた 研修会」に参加して

鳥取因幡組 願正寺

房安 薫

第四連区の「寺院仏壮結成に向けた研修会」が、二月四日、四州教区南国市のサザンシティホテルで開催された。別教区での開催と言う事もあったが、連続して行った方が効果的だとの申し入れもあり、昨年に続き四州教区でとなった。未結成四寺院八名の方を含め五十四名(女性四名参加)の参加者で開催されました。

開会式・研修会の趣旨説明に続き、昨年の研修会後結成された「安楽寺仏壮」の方から「会が出来参加出来てよかった・今では近所の同年代の方にも声かけしている・今後は地域の為にも働きたい」との事例報告がされた。

仕事で、それぞれの地域で、各家庭で中心的立場である同年代の方が、「何かの時に気兼ねなく話せる人も場所も無く一人で考え込んでしまいそうになった時、仏社会があつてよかった」という声を聞く度に、会員となった喜びや、有り難さが思われる。

その後、連盟講師の高橋哲了師からの問題提起を受け、五班に別れての班別討議と進んだ。既に結成されて活動している会員の現状や問題点、それに対してどう取り組もうとしているのか、又未結成寺院から参加された方の質問、等々、設定された時間が短く感じられる程に活発な討議がされていた。班別討議後の発表・全体会で話された内容には、「そういうことだろうな」と思っていたり、「成程、そんな方法も

有るな」と思われされたりと、話し合うことの良さ・大切さを考えさせられた。

今回の研修会で、特に考えさせられた事二点、第一に高橋師が話された「此のままではお寺自体が成り立たなくなる・仏壮がつくれないような寺院は尚更である」と言うこと。以前のように、親から子へ・子から孫へと受け継がれて来たことが、核家族化が進み継がれにくくなってきた。「寺離れ」と言われる事も、その一つではないだろうか。

お寺で法要があれば、子や孫を連れてお参りする姿をよく見かけたものだが、今では見かける事もほとんど無くなったように思う。私たちが高齢化してお寺へ行けなくなった時に、どうなるのだろうかと考えさせられた。第二に、寺院仏壮結成に向けた取り組みの現状について。全国的にみても結成率を大きく延ばす事が難しくなってきたように感じる。結成しても、高齢化や新会員の入会が無いなどにより会員数の減少で、会自体が休会状態になり、連盟を退会するという事を聞く事もあり、仏壮も、未結成寺院に結成を呼びかけるばかりではなく、現在の仏壮を如何に活性化させ、後継者を育てて行くかを、重要課題の一つとして取り組むべき時代になっていると思う。

研修会後の懇親会でも色々話をしながら、名残惜しくまたの再開を確認仕合ながら別れた。今回の研修会は、色々な思いや、今後のことも含めて考えさせられた、得難い研修会でした。



仏教壮年会

中央研修会に参加して

大代仏教壮年会 会長

武田 廣司

私達の仏教壮年会は平成二十三年八月に発足、二ヶ月に一回、夜二時間程度、地域の賛同者と共にお寺に集まり極楽浄土への道筋を見極めるべく仏法を学んでいます。

しかし仏教壮年会は以前からなぜか活動が先細りとなり長続きしない会の一つに成っています。私達の仏壮もごたぶんにもれません。この様な状況の中で山陰教区仏教壮年会連盟元理事長を務められました泉原氏より中央研修に行かないかと、お誘いを受けました。私は全国各地の実態を知る良い機会であり活性化のヒントになればと思いい参加する事と致しました。

しかし研修会の初日「研修のねらい」法話、講義「仏教壮年会に求められるもの」問題提起、班別話し合い法座...と進行される中で自分の思いとは波長が合わない事と気づきました。

今回の研修テーマを私がよく理解していなかったのが要因でした。そのような中で二日間でしたが私達にも興味ある活動事例を聞く事が出来ました。

その一つに仏教壮年会に雅楽を取り入れて活動しているグループの発表事例です。私達の仏教壮年会は法話を聞く、正信偈の解説を学ぶなど、一方的に話を聞くだけ、座っているだけです。

条件を整えるには困難が有ると思いますが自分たちが行動



しながら雅楽の演奏を学ぶことは活性化のヒントになりました。

二日目はパネルディスカッション全体会、予め前日パネリストにテーマを与え自分の思いを発表する手法です。今回のテーマは

①自分の真の喜びは何か(金銭的な事は除く)

②家族に対するかわり喜びをどのように伝えて行くか

③仏教壮年会に付いての自分の思い

此れはやはり大勢の人前を意識した発表が多かった様に思いました。

日程の最後に「まとめ」のお話の一節に「いくたびも、お手間かかりし菊花」私の心に残る言葉でした。

親鸞聖人七五〇回忌を経た今尚、多くの門信徒から崇拜される現実、そこには何が有るか偉人物語では語れない難しさが有る。

聖人の偉大さ教えに気付くには信仰心を育てるこれが私達の仏教壮年会を活性化させる源ではないかと考えます。

今回の貴重な体験をいかし会員の皆さんから次回の開催日を楽しみにして頂ける仏教壮年会を目標に尽力したいと思ひます。

合掌

編集後記

記事が単なる「お知らせ」になっていると、これを見る人の目は惹かない、とぼくは思います。その訳は、見る人が、記事を読んでもその意味を解こう、という気持ちにさせないからです。

さて、仏(宗)教は、人間の「内省・反省・告白」を大事にする、といわれます。これが、人間がよりよく進歩しようとするか否かの「サイン・合図」なんだから。

今回お寄せいただいた原稿のすべてが、この大事を押さえた記事です。さすが「仏壮」「サンキュウベルマッチョ」とぼくは感涙にむせびました。